

第74回 日本公衆衛生学会総会報告 —「公衆衛生ねっと」自由集会とヘルプロ活動展示—

公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター 嶋田雅子, 吉葉かおり, 野藤 悠
増居志津子, 阪本康子, 中村正和
柳川 洋

はじめに

2015年11月4日～6日、第74回 日本公衆衛生学会総会が長崎市で開催された。ヘルスプロモーション研究センター(以下、ヘルプロ)はこの学術総会において、「公衆衛生ねっと」の自由集会・情報交換会を開催、ならびに、一般展示としてヘルプロ活動を紹介するブースを出展した。本稿では、その内容と会期中の様子を報告する。

「公衆衛生ねっと」自由集会・情報交換会

2015年11月5日(木)「公衆衛生ねっと」の自由集会と情報交換会を開催した。

「公衆衛生ねっと」とは、公衆衛生や地域保健活動に従事する方々の情報交換・交流を促進し、活動の幅を広げるとともに、日頃の活動で遭遇

するさまざまな課題の解決に役立つことを目的とするネットワークである。「公衆衛生ねっと」の目的と活動内容を表1に示す。ヘルプロは「公衆衛生ねっと」の事務局としてWebサイト<http://www.koshu-eisei.net/>を運営しており、現在の会員数は1,600人(2015年11月10日現在)、メーリングリスト(k-net)では会員相互の公衆衛生に関する情報発信や活発な意見交換が行われており、また、国内外における政府機関や公衆衛生関係の研究機関などが公表している統計資料、各種新着情報も定期的に配信されている。入会の登録は無料で上記のWebサイトから簡単に手続きができる。地域や職域で健康づくりや保健予防活動に従事されている方々はぜひ会員登録して活用していただきたい。

自由集会は19時から総会会場内の会議室にて行い、34名が参加した。

「公衆衛生情報の有効活用－公衆衛生ねっとを中心に－」をテーマに、まず事務局より会員の登

表1 「公衆衛生ねっと」の目的と活動内容

<目的>

公衆衛生関係の多職種の交流と情報の共有を活性化し、活動の幅を広げるとともに、日頃の活動で遭遇するさまざまな課題解決に役立てる。

<活動内容>

- メーリングリスト(k-net)による会員相互の情報発信、情報交換、相互協力
- 調査研究に関する支援(研究費情報、研究計画・論文作成など)
- 各地の公衆衛生情報の提供
- 国内外の政府機関や研究機関からの最重要情報、通達、週報、疾病情報、感染情報、研究成果、その他の一般情報の収集と配信
- 教材の相互利用

図1 自由集会プログラム

第74回日本公衆衛生学会総会 自由集会 2015年11月5日(木)	
公衆衛生情報の有効活用 —公衆衛生ねっとを中心に—	
19:00-19:10 「公衆衛生ねっと」の現状報告	
19:10-20:00 話題提供 (講義各15分・質疑応答各10分)	
①「疫学研究成果を実際の公衆衛生活動・対策に生かすには!？」 田淵 貴大 (大阪府立成人病センターがん予防情報センター 疫学予防課 課長補佐)	
②「公衆衛生ねっと情報の発信と活用」 緒方 剛 (茨城県古河保健所 所長)	
20:00-20:15 参加者からの意見・要望など	

録状況や利用状況など運営情報を報告した後、
会員2名の先生に話題提供をしていただき参加
者と意見交換を行った(図1)。

まず、大阪府立成人病センターがん予防情報
センターの田淵貴大先生から「疫学研究成果を
実際の公衆衛生活動・対策に生かすには!？」を
テーマに、現在取組まれているたばこ対策の事
例をもとに、疫学研究成果を政策につなげる
にはどうすればよいか、ご自身の実践活動を紹
介していただいた。喫煙は日本人の死亡におけ
る危険因子の第1位であり¹⁾、公衆衛生活動の重
要課題である。「公衆衛生ねっと」においても積極
的な情報交換・意見交換を期待している。

続いて「公衆衛生ねっと情報の発信と活用」と
題して茨城県古河保健所の緒方 剛先生にお話
していただいた。緒方先生はk-netで公衆衛生業務に
必要なエビデンスを多岐の分野にわたり定期的
に配信してくださっている。情報発信の思いや
活用に関する期待について、熱く語っていただ
き、その情報の発信力に参加者は刺激を受けた
ようだった。

その後、場所を移動して共に食事をしながら
情報交換会を行った(写真1)。Web上だけでなく、
実際に顔を合わせる交流の機会はとても貴重
であり、和やかな雰囲気の中、参加者同士の
親睦を深めることができた。ネットワークがよ
り一層強く広がっていくのを実感した。

写真1 情報交換会の様子



写真2 展示ブースで活動内容を紹介



ヘルプロ活動紹介 (活動方針と内容の展示)

総会の会期中、ヘルプロの活動を紹介するブ
ースを出展した(写真2)。ブースに立ち寄って
いただいた方からは、地域医療を支える組織と
して保健と医療の連携を目指したヘルプロの活動
に関心や期待を寄せていただいた。

ヘルプロは2015年4月より新体制で活動して
いる。本稿ではブースで紹介した4つの活動の
柱から、主な活動内容と今後の展望を紹介する。

1. キャラバン隊による予防医療活動

Health Promoting Clinic/ Hospitalの実現を目
指して、医療施設等と協同し予防医療活動を
行っている。奈良県明日香村診療所で通院患者
を対象にした糖尿病教室²⁾、静岡県西伊豆町田
子診療所で地域住民を対象にしたフレイル予防
教室³⁾に続き、東京都台東区立台東病院など
での多職種連携による外来・入院患者および職員
を対象とした禁煙推進モデル事業の検討を進め
ている⁴⁾。

2. 自治体と協同したモデル事業

自治体の健康課題を明らかにするための地域診

断を実施し、地域診断に基づく生活習慣病と高齢者のフレイル予防に向けた事業提案を行っている。岐阜県恵那市では、これらの事業提案と市議会議員を対象とした研修会を実施した。また、群馬県嬬恋村では村ぐるみで地域包括支援研修会を実施し、医療・保健・介護従事者を巻き込み村内11地区の住民対象の健康づくり教室に展開している。その他、神奈川県真鶴町が策定する地域福祉計画策定の受託も予定している。

3. 指導者養成・情報発信

今年度は「地域診断」「研究費取得」に関するセミナーを実施した⁵⁾⁻⁷⁾。さらに、ポピュレーション戦略に基づいた好事例を学ぶ特別セミナーを開催し、身体活動と食生活(減塩)をテーマにした地域ぐるみの健康づくりを学んだ^{8),9)}。これらの内容を含めて、本誌2016年3月号に特集企画「地域ぐるみの健康づくり戦略」を掲載予定である。セミナーに関する資料はすべてホームページで公開しているのでご覧いただきたい¹⁰⁾。2015年12月から2月にかけては日本禁煙推進医師歯科医師連盟と共同で、禁煙支援・治療に関するeラーニングを開講する¹¹⁾。

4. 公衆衛生人材バンク

冒頭で紹介した保健医療関係者のネットワーク「公衆衛生ねっと」の運営をはじめ、今後公衆

衛生医等の人材バンクの構築に向けた準備を予定している。

以上、今後も保健と医療と介護、その関係者や関係機関をつなぎながら、ヘルプロのキャッチフレーズでもある“みんなの健康をみんなで守る”活動を展開していきたい。

参考文献

- 1) Ikeda N, et al: PLoS Med 2012; 9(1): e1001160.
- 2) 嶋田雅子, 安藤実里, 豊田綾子, 他: 明日香村健康カフェ「糖尿病教室」の試み. 月刊地域医学 2015;29(4):280-283.
- 3) 吉葉かおり, 野藤 悠, 嶋田雅子, 他: ヘルプロキャラバン「フレイル予防教室」実践報告. 月刊地域医学 2015;29(10):790-792.
- 4) 増居志津子, 中村正和: 協会施設における今後の禁煙推進にむけて. 月刊地域医学 2015;29(10):793-797.
- 5) 嶋田雅子, 吉葉かおり, 野藤 悠, 他: ヘルスプロモーション研究センターの活動紹介-「今こそ地域診断」セミナー報告とともに- 月刊地域医学 2015;29(7):538-541.
- 6) 嶋田雅子, 吉葉かおり, 野藤 悠, 他: ヘルプロセミナー「研究費取得のコツ」実践報告. 月刊地域医学 2015;29(9):708-709.
- 7) 柳川 洋, 嶋田雅子, 吉葉かおり, 他: 研究費取得のための戦略. 月刊地域医学 2015;29(9):710-712.
- 8) 第1回ヘルプロ特別セミナー. 月刊地域医学 2015;29(8):631.
- 9) 第2回ヘルプロ特別セミナー. 月刊地域医学 2015;29(10):821.
- 10) ヘルスプロモーション研究センター ホームページ http://www.jadecom.or.jp/overview/inst_healthprom.html (accessed 2015 Nov 10)
- 11) 増居志津子, 阪本康子, 中村正和: 禁煙支援・治療に関するeラーニングを活用した指導者トレーニングの普及 (J-STOP事業). 月刊地域医学 2015;29(11):906-910.